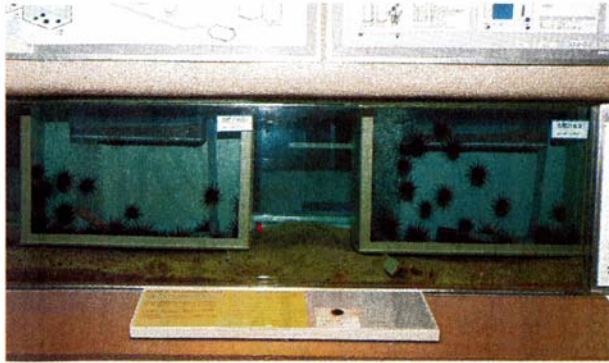


ムラサキウニ



ムラサキウニを使って、近い将来予想される海洋酸性化の影響を調べている(水槽番号301)

水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館

80 白山 義久

白浜水族館のウォールケースを過ぎてすぐのところに、二つの水槽でムラサキウニがたくさん飼育されている。この水槽では、将来の海洋環境の重大な問題の詳細を明らかにする実験が行われている。その問題は「海洋酸性化」と呼ばれている。大気中の二酸化炭素の濃度がどんどん上がっていることは誰もが知っている。地球温暖化は確実に起こりつつあると警告している。人類が化石燃料を消費して大気中に大量の二酸化炭素を放出しているが、放出した二酸化炭素の量に比べると大気濃度の上昇は少ない。それは、海が大気から二酸化炭素を吸収しているからだ。表面海水に含まれる二酸化炭素の濃度は、どんどん上がっている。

忍び寄る海洋酸性化の危機

が持っている炭酸カルシウムの殻がうまく作れないようになる。この海洋酸性化の影響がどのくらい深刻なのかを明らかにするため、将来予想される二酸化炭素濃度の海水と、現在の海水でウニを飼育し、その影響を調べているのである。地球温暖化には、いろいろな不

確定要素が含まれているので、温暖化を否定する人もいるが、海洋酸性化に不確定要素はほとんどない。将来必ず起こるし、その大きさも大気中の二酸化炭素濃度が決まれば精度よく予測がつく。将来の海洋環境はウニにとってかなり不都合なものになるだろう。実際、1年以上にわたって、高い二酸化炭素濃度で飼育したムラサキウニは成長が悪く、その殻は大変もろくなっている。

仮に地球温暖化が起らないとしても、海洋の生態系が将来深刻な影響を受ける可能性が高い。人類が協力して二酸化炭素の排出削減をしないとイケないということこそ、このムラサキウニの展示を通して皆さんに理解してもらいたい。

(京都大学瀬戸臨海実験所長) 二おわり